

人権だより

(令和5年度10月号)

川之石高校人権委員会 担当 2年次2組

朝夕の気温差が激しくなってきました。体調や気持ちの管理が難しいですね。人権委員会では、人権学習を「みんなが幸せになるための学習」だと考えています。こつこつと学び続けていくことが、何よりも大切です。そこで人権委員会では、今月も委員会の時間を利用して人権・同和問題に関する学習をしました。

川口 泰司さん プロフィール



1978年 愛媛県宇和島市の被差別部落に生まれる。

中学時代、同和教育に本気で取り組む教員との出会いから解放運動に取り組むようになる。

大阪の大学を卒業後、2005年より山口県人権啓発センター事務局長として活躍。部落問題をドンと真ん中に据え、自分の言葉とわかりやすい表現で、差別の本質に迫る。笑いあり、涙ありでエネルギーに語りかける講演は、世代を超えて共感を呼ぶ。「部落差別って、今、どうなっているの?」「何で自分が差別の勉強をしなきゃいけないの?」などの疑問に対する答えが見つかる講演をされる。

この川口さんが、結婚(事実婚)を決めたときに奥さんの両親になる人にあいさつに行ったそうです。自分が部落の出身で、解放運動をしていることを告げました。奥さんのお父さんは「部落出身ということは気にしないけど、聞かれてもないのに自分からは言うな。」と言い、お母さんは「うちの娘は再婚で、もう子どももいるのにありがとう。」と言ったそうです。

結婚して2年くらいたった時、川口さんと奥さんの間に子どももできたので、奥さんのお母さんに「結婚式も挙げていないし、子どもを連れてお母さんの親族にあいさつに行きたい。」とお願いしました。すると「まだ結婚したことを親族には話していない。兄弟に会うのはいいけれど、部落という言葉は言わないで。自分が高校生の頃、お姉さんが部落の人と結婚しようとしたら、一番上のお兄さんが大反対したの。そのお兄さんがまだ生きているから。」と言われました。でも川口さんは、「自分は隠すのは無理だ。もめたら、自分で話をするから…。」とお願いしました。しかしお母さんは「私は差別するつもりはないけど…。」と言いながら結局親族には会わせてくれませんでした。

その後しばらく奥さんのお母さんには会いませんでした。けれどお母さんからある日連絡があり、直接会いたいとのことでした。会いに行くと、奥さんのお母さんは「泰司くん、本当にひどいことを言って申し訳なかった。あの日から毎晩お父さんと、どうして泰司くんを差別しないといけないのだろう、とずっと話し合った。何回考えても、差別をする理由は見つからなかった。そこでお父さんが、『自分たちがまず私の兄弟たちに会いに行つて説明をしよう、それでわかってくれないなら縁を切ろう。』と言ったの。だから兄

弟に会いに行った。私の一番上の兄以外は何も言わなかった。最後にその兄に会いに行った。再婚したこと、孫ができたことを説明して、相手が部落出身だと伝えた。するとお兄さんは『今頃何を言ひよる。今はそんな時代じゃない。あれから自治会やPTAの研修に何回も言って勉強した。今はそんなことは関係ないんや。いつまで気にしよんや。』と言われた。結局、差別をしていたのは私だった。お兄さんのことを気にして、泰司くんのことを認めてなかったのは私やった。申し訳なかった。」

その話を聞いて、すぐ奥さんのお母さんの親族に会いに行き、お祝いをしてもらった。差別をしない生き方が人を幸せにする。

～人権委員の感想より～

○川口さんの奥さんのお母さんは、川口さんが傷つくかもしれないと思って、親族に会わせなかったけど、それが差別になっていたことに最後に気が付きました。私も、もしかしたら自分で気が付かないうちに差別をしていることがあるかもしれないと思いました。自分の行動を見直したいと思いました。

○自分が気づいていないだけで、知らない間に差別をしていたら…と考えさせられる動画でした。自分の一言で誰かを差別することがないように、よく考えてから発言をしたいです。

○「差別をされたいいけないから会いに行かないで。」と言ったのは、その時点で自分も差別をしていることになるのだと初めて気が付きました。

○お兄さんのようにお年寄りになっても、学ぶことをやめないで研修に行って考え方を変えている人がいてすごいと思いました。私も自分で気づいて自分で変わる人間になりたいと思いました。

○人を気遣っていたつもりが差別になることもある、ということに初めて気が付いたので、とても勉強になりました。これは部落差別に限ったことではないと思います。「差別をしない生き方が人を幸せにする。」というのは、川口さんの今までの人生経験から生まれた言葉なのだろうなと思いました。当たり前なことだけれど、意識して生活をしようと思いました。

みなさんのご協力をお願いします！

11月3日に行われる川高祭で、人権委員会はユニセフへの募金活動を行います。昨年度は、入場制限があった中でも20,749円の募金が集まりました。これは約600人の子どもたちに栄養治療食を届けることができたこととなります。

世界ではまだ、5人に1人の子どもが紛争地で暮らしていると言われていて、一人一人の力は小さくても、川高全体の取り組みになると大きな力になります。

人権委員が、10:00から校内の色々な場所で募金を呼びかけますので、ぜひご協力をよろしくお願いします。

